

東日本ユニオン TOKYO

JR東日本労働組合東京地方本部

発行責任者 郷 重雄

発行 教宣部

2019年9月16日 NO. 100



「もう〇年」ではなく「まだ〇年もある！」という 気概で組織強化拡大を全組合員で取り組もう！ 東京地本第7回定期大会開催！

東京地本は8月31日、「田町交通ビル」において第7回定期大会を開催しました。

議長には新宿地区駅連合分会の長谷川代議員を選出しました。

長谷川議長はあいさつにて、「私たちの取り巻く情勢は厳しい。労働者の組合離れが進んでいる 1年間の総括と新たな1年間の方針を作り出すために活発な発言を」としました。



郷執行委員長挨拶要旨

会社がどういう方向に進んでいくのかわからないと現場の声がある。このような状況に立ち向かっていく構図が変わってきている。ともに議論していくということを抜きには組合員の幸せは来ないと思う。地道な取り組みが1人の仲間を迎え入れることができた。

●安全の確立

最近、新幹線のドアが開いたまま走行してしまうなどミスがなくなる。だからこそ現場で働く生の声を重視した意見交換が必要。会社はワンマン運転など目指しているが、現場で働く者の声を第一にして会社と話し合っていく。

●組織強化拡大

「あと、もう何年」ではなく「まだ何年ある」という気持ちで新たな仲間を迎え入れるためには何をすべきなのか？を問われている。

労働者同士の分断を防いでいくには一つの会社が一つのチームのファンであるとしていけば立場を超えて意見交換がスムーズにいくと思う。そのためには人を知ろう。それができるのは現場で働く者同士である。

●政治活動

参議院選挙において「もりやたかし」候補が当選したが、与野党の構図に大きな変化を起こせなかったが、一定程度の成果があったと考える。安心して暮らせる・働ける会社を作っていくために政治のことについても意見交換をしていく。



質疑応答：代議員からの発言要旨

- 会社が過去の施策の総括なしに矢継ぎ早に新施策を出すので現場は混乱している
- 通勤に3時間かかる。在来特急を通勤に使えるようにしてほしい
- JOB ローテーション・新基地構想などの会社施策実施で安全は大丈夫か？「社員の幸せ」と会社は言うが「誰」が幸せになったのか？
- 扶養認定範囲拡大の実現を望む
- 年構成上、分会維持難しい
- エルダー社員制度にある「短日数勤務」が適用されない。「資格手当」がエルダー社員にだけ支払われない
- 会社施策で業務は軽減されるどころか煩雑になり増加している。会社の仕事が「雑」になっている
- エルダー社員の業務がキツイ、仕事を辞める人も多くなっている。
- エルダー先でも組合加入率が低下している、職場の声が上に届かない。トップダウンばかりだ。“本体エルダー” 具体的な業務内容が示されない、現場長裁量とも言われている、これでは選択できない。
- まだエルダー先の提示無い。「年配者」は蚊帳の外に置かれている。会社の説明は手際が良いが質問に答えられていない
- 事務職には何の手当もない

総括答弁：小泉書記長

- 不満、もやもや
会社の施策が具体化されてない、この先どうなるのだろう？この先どうかかわっていくのか？現場管理者が説明できない。
会社が作っているルールがしっかりと運用されていない。議論しあって会社につけて解決していく。
- 新しく作った設備がすぐに故障。会社のイエスマンばかりで、チェック機能が働いていないのでは？不祥事もこうした中で出てくる。労働組合の必要性がこういった中で出てくる。
- 組織拡大、他労組への取り組み、外に向けた取り組みができてきたのではないか。
- 立ち寄り行動など、集まること、集まる場を作ること念頭に行動してきた。意見交換をしていこう。

新執行部体制

執行委員長	郷 重雄
執行副委員長	小宮 実
執行副委員長	佐藤 充
書記長	小泉 弘明
組織部長	難波 剛
総務部長	須貝 欣一
業務担当部長	守屋 和美
教宣部長	室岡 圭司
会計監査員	久保田 勉
会計監査員	鈴木 英司

**組織拡大に向け一人一人が諦めずに
全力でこの1年間、取り組んでいこう！**